立山砂防安全施工管理技術研究発表会

藤本一行氏（丸新志鷹建設）が最優秀賞

北陸地方整備局立山砂防事務所工事安全対策協議会（会長・大坂剛立山砂防事務所長）は21日、「平成28年度立山砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会」をボルファートとやま（富山市奥田新町）で開催した結果、最優秀賞は藤本一行氏（丸新志鷹建設）、優秀賞は蔵田幸一氏（千場建設）と橋場洋平氏（高田組）に決定した。

発表会には行政機関、建設会社、コンサルタントなどの関係者約220人が参加し、大坂会長は冒頭のあいさつで、「安全対策を講じることで形式的に安全だと過信することなく、予断なく地道に安全対策に取り組む必要がある。たとえば、きょうの発表会のように、他の現場の優良・優秀な事例をみなさんで共有することで、今後の砂防工事の安全対策を考えるきっかけになればと考えている」などと述べた。

引き続き、後援機関、審査委員の紹介が行われ、今年度に応募があった27編から審査で選ばれた8編の論文発表、質疑応答などが順次進められた。また、北陸地方整備局の高島和夫地方事業評価管理官が「北陸のi-Construction」と題して特別講演を行った。

同発表会は、平成8年12月6日に発生した新潟・長野県境の浦原沢土石流災害（作業員14人死亡）を教訓として、平成11年度から毎年行われている。立山砂防工事に携る工事従事者が研究会という場で、安全施工管理の新たな技術を相互に発表・意見交換し合うことで、今後の安全施工に関わる技術の向上につなげていくことなどを目的としている。

後援は、富山労働基準監督署、魚津労働基準監督署、建設業労働災害防止協会富山県支部、（一社）富山県建設業協会、富山市建設業協会、立山町建設業協会、実業建設新報社、富山県土木施工管理技士会、砂防施工管理研究会。

審査結果は次の通り（氏名、所属会社、論文名の順）。

【最優秀賞】

▽藤本一行氏（丸新志鷹建設）＝「H28瀬戸蔵砂防堰堤下流床固工工事における安全管理」

【優秀賞】

▽蔵田幸一氏（千場建設）＝「工事用道路施工における安全対策について」

▽橋場洋平氏（高田組）＝「本工事における通信環境改善について」

【奨励賞】

▽松田孝之氏（中越興業）＝「砂防堰堤工事におけるリスク低減対策について」

▽伊井芳一氏（新栄建設）＝「砂防堰堤工事における安全対策について」

▽石崎雲至氏（水新建設）＝「安全対策の新たな取り組み」

▽松浦薫氏（ダイチ）＝「斜面対策工事における安全対策について」

▽阿部雄峰氏（高尾建設）＝「白谷川砂防堰堤工事における安全対策について」

ボルファートとやまで行われた発表会

論文発表の様子

農山村振興対策委員会

富山県 きょう開催

富山県は22日、農山村振興対策委員会を富山県民会館704号室で開催する。

議事内容は、日本型直接支払制度の実施状況等について（中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払制度、環境保全型農業直接支払制度）、農村環境創造基金事業の実施状況について、平成29年度農山村振興対策の概要について。

若栗51号用水路ほか1路線工事

新川農林

3月7日開札

富山県新川農林振興センターは3月7日、「土地改良総合整備若栗南部地区若栗51号用水路ほか1路線工事」（予定価格2860万円）を条件付き一般競争入札（総合評価方式簡易型Bタイプ）で開札する。

工事場所は黒部市若栗地内、工事概要は用水路工L＝485・1m（若栗51号用水路（TBF－500）L＝285・3m、若栗50号用水路（JBF－300）L＝199・8m、付帯工N＝1・0式）若栗52号用水路、若栗66号用水路（目地補修、水口改修）一式で、工期が平成30年3月9日までとなっている。

主な入札参加資格は、富山県新川農林振興センターが管轄する区域内に主たる営業所を有する者。富山県外に主たる営業所を有する者のうち、富山県内に住所を有する従業員を常時10人以上雇用する営業所を管轄区域内に有し、平成26年4月1日以降に管轄区域内における県道若しくは市町村道に係る除雪業務若しくは凍結防止剤散布業務の受託実績があり、かつ、入札参加資格の確認の申請の日において富山県地域防災計画に基づき富山県と締結した災害協定に参加している者。資格者名簿の登載業種等が土木一式工事A及びBクラス。富山県内で平成19年4月1日から入札参加資格の確認の申請の期限の日までの間に富山県発注の一般土木工事で工事成績評定点が65点以上として通知を受けていることなど。

入札参加資格確認申請書及び添付書類の提出は27日まで。

28年度工事安全施工管理研究発表会

最優秀賞は西本秀夫氏（宝興建設）

神通川水系砂防事務所工事安全対策協

神通川水系砂防事務所工事安全対策協議会は20日、平成28年度「第18回工事安全施工管理研究発表会」を、岐阜県飛騨市神岡町の船津座で開催した。研究発表の最優秀賞には西本秀夫氏（宝興建設）、優秀賞と奨励賞にはそれぞれ3氏が選ばれ、表彰式が行われた。

研究発表会は、奥飛騨の砂防関係工事に従事する技術者が、各現場において建設労働災害の防止に取り組んだ安全対策、安全教育、施工の創意工夫などを論文にまとめて発表し、今後の安全施工向上を図ることが目的。工事関係者と安全対策協議会員を含め141名が参加した。

発表では、平成28年に実施した工事・業務についての応募論文（工事11件、業務7件、岐阜県古川土木事務所所管工事1件）19件の中から選ばれた7件の事例が紹介された。論文名、受賞者名、会社名は次の通り。

《最優秀賞》

▽「砂防堰堤補強他工事における安全対策について」西本秀夫（宝興建設）

《優秀賞》

▽「土石流災害防止対策について」中田圭介（浦田建設）

▽「跡津川上流砂防堰堤その2工事における安全対策について」葛谷弘樹（坂本土木）

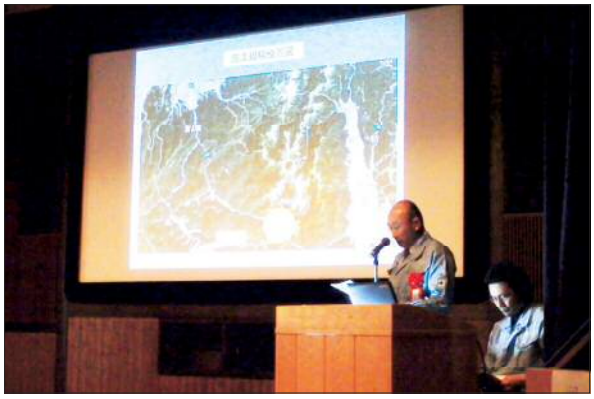
▽「災害から作業員を守る安全対策について」吉田康人（中越興業）

《奨励賞》

▽「作業の省力化による安全対策について」山田昌文（高田組）

▽「出しケ谷砂防堰堤工事における地域と安全への取り組みについて」室田友幸（清水建設）

▽「跡津川・双六川流域河床変動測量における安全管理について」松島裕之（舘下コンサルタンツ）



飛騨市の船津座で開催された発表会

表彰式の模様